

事業計画書

①団体名	特定非営利活動法人 つくぼ片山家プロジェクト
②テーマ区分	指定テーマ(4) 「備中地域の魅力・伝統文化の発信」
③事業名	備中地域の伝統芸能を通じた地域活動～「本物の能楽」に触れて 地域における伝統芸能・伝統文化を再発見しよう～
④採択回数等	1回目(初申請) *令和2年度に採択され、継続する事業については、いずれかを○で囲んでください。 新制度の適用 ・ 経過措置規定の適用 (補助率4/5以内、上限160万円) (補助率1/2以内、上限100万円)
⑤事業目的	備中地域の伝統文化・伝統芸能を知ることにより、自らの存在が地域社会の中で生まれたことを再認識し、若い世代に地域のためにできること、故郷のためにできることを探すきっかけになればと考える。この事業により地域住民主体によるまちづくりや、地域住民による地域の魅力の発信など、当該地域の魅力の再発見につなげていきたい。
⑥現状及び課題	能楽や神楽などの伝統芸能の文化は岡山県のみならず全国的に指導者の高齢化や能舞台等の活動の場所の減少により、そのポテンシャルを十分に発揮できない状況にある。また、能楽や神楽という名称は知っていても実際にそれらを体験・鑑賞したことのある人々は減少の一途となっている。こうした現状に拍車をかけることとして「本物の伝統芸能」に触れる機会がなく仮に貴重な機会として地元備中地区で上演会等が開催されたとしても、開催経費等の関係で受講料・観覧料が高額となり、一般的な市民、特に学生や若者層はその負担から参加を躊躇してしまうといった課題がある。
⑦事業内容	<p>(1)「備中能楽講座」(能楽night in総社)【開催回数:1回】 開催日:令和3年5月8日(土) 会場:総社かぐらや(「NPOかんなぎ」との連携) 参加者:備中エリア地域住民(主に総社エリア) 講師:林宗一郎(観世流シテ方) 内容:源平合戦を取り上げた能について講演会を行い、謡の体験をする。</p> <p>(2)「備中能楽体験教室」【開催回数:2回】 開催日:①令和3年7月18日(日) ②令和3年7月25日(日) 会場:①「つくぼ片山家・能舞台」(倉敷市) ②「いかしの舎」早島町 参加者:小中高生他、地域住民 講師:観世流シテ方、幸流小鼓方 内容:室町時代から続く日本の伝統芸能「能楽」の仕舞・謡・小鼓を体験する。主として、地域の小学生から高校生を対象に、プロの「能楽師」からレクチャーを受けられる貴重な経験の場である。</p> <p>(3)「備中伝統芸能フェスティバル」(「藤戸」演能会等)【開催回数:1回】 開催日:令和4年2月6日(日) 会場:倉敷芸文館ホール 参加者:備中エリア地域住民他、近隣の関心を持つ人 内容: (1)謡発表会・・・能楽講座で体験した一般参加者が謡の発表会を行う。 (連携して活動した団体の活動等のコラボレーションも企画中) (2)能楽解説(歴史的背景等講話):「藤戸」を紐解く (3)能楽「藤戸」(出演:林松響会)</p>
⑧天災地変、感染症等で⑦の事業が実施できない場合の対応	オンラインでのWEB配信や小規模会場での規模縮小等を検討し、可能な限りの開催を目指す。(開催の状況を収録。YOUTUBE等で配信) また当該イベントに興行保険をかけ、万一開催中止になった場合の損失に備える。

⑨今年度の成果目標と指標	①地域住民に広く「本物の伝統芸能」に触れる機会としての企画・イベントを開催し、伝統芸能や伝統文化について、身近に感じてもらう機会を創出する																
	②備中県民局管内の行政機関、市民団体や学校等と連携して企画を運営・広報することで伝統芸能通した、地域活動を連携や協働して活動できるネットワークをつくる。																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>成果目標</th> <th>指標</th> <th>現状(数値)</th> <th>目標(数値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>はじめて伝統芸能に触れる地域住民の数を増加させる</td> <td>参加者アンケートで「初参加」をカウント</td> <td>0</td> <td>各イベントで参加者比率25%</td> </tr> <tr> <td>企画を連携して運営できる団体等の獲得</td> <td>後援や運営協力団体をカウント</td> <td>0</td> <td>団体数10か所以上</td> </tr> <tr> <td>伝統芸能を身近に感じてもらう、地域への愛着を醸成する</td> <td>参加者アンケートによる意識の変化等</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	成果目標	指標	現状(数値)	目標(数値)	はじめて伝統芸能に触れる地域住民の数を増加させる	参加者アンケートで「初参加」をカウント	0	各イベントで参加者比率25%	企画を連携して運営できる団体等の獲得	後援や運営協力団体をカウント	0	団体数10か所以上	伝統芸能を身近に感じてもらう、地域への愛着を醸成する	参加者アンケートによる意識の変化等	-	-
	成果目標	指標	現状(数値)	目標(数値)													
はじめて伝統芸能に触れる地域住民の数を増加させる	参加者アンケートで「初参加」をカウント	0	各イベントで参加者比率25%														
企画を連携して運営できる団体等の獲得	後援や運営協力団体をカウント	0	団体数10か所以上														
伝統芸能を身近に感じてもらう、地域への愛着を醸成する	参加者アンケートによる意識の変化等	-	-														
⑩中期(数年)的な目標	<p>■当法人だけでなく、備中県民局管内の伝統芸能で活動している団体等と連携して、具体的な企画・イベントを協働開催する。また、ご当地で相互の活動発表を行うなど、志を同じくする活動団体と連携した活動が可能となる「場」(プラットフォーム)を創ること。</p> <p>■伝統芸能に限らず、観光や地域振興、福祉実践等、地域で精力的に活動されている多分野・多方面の地域活動とコラボレーションし、新たな着眼点での事業協働や企画運営を行う。</p>																
⑪長期的な目標	地域住民が地域の伝統文化にふれ、地域の魅力や伝統文化・伝統芸能を認識することにより地域社会におけるつながりを深め、地域住民が主体的に地域活動を担える雰囲気醸成する。(地域の出来事を「わがごと」として、「地域丸ごと」で取り組む、まちづくり文化の醸成)																
⑫翌年度以降の事業展開の予定	能楽講座・体験教室の対象地域を拡大し、今年度開催できなかった他の備中エリア(例:井原・笠岡市等)での開催を計画。地元学校や伝統文化の継承団体等ともさらに連携し地域に愛着や関心を持ってもらえるような事業を行いたい。																
⑬事業実施に関連する活動実績・アピールポイント	<p>■当法人が管理・運営する「つくぼ片山家」には能舞台があり能楽関係のイベントを主催できる会場を活用した企画が可能。</p> <p>■能舞台の存在から伝統芸能関係者・能楽関係者だけでなく、地域の伝統文化に興味をもち積極的に活動している人材とのネットワークがある。</p> <p>【助成実績】福武教育文化振興財団・教育文化活動助成(2018-2020年継続助成)</p>																
⑭想定される役割分担	<p>【団体】</p> <p>■「備中地域の伝統芸能を通した地域活動～「本物の能楽」に触れて地域における伝統芸能・伝統文化を再発見しよう～」の事業実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画にあるイベント(備中能楽講座,能楽体験教室,備中伝統芸能フェスティバル等)を企画・立案すること。 ・進捗管理を適切に行い、業務日程計画表に沿って事業を遂行すること。 ・次年度以降も同様の事業が継続できるよう、関係機関・団体等との連携を強化し、ネットワークを構築すること。 <p>■各種保険への加入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の不慮の事故や、天災等によるイベント中止に備え「興行賠償責任保険」及び「興行中止保険」へ加入すること。 <p>■事業報告書等の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告及び事業実績報告書の作成を行うこと。 <p>【県民局】</p> <p>■企画への協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甲が実施する事業「備中地域の伝統芸能を通した地域活動～「本物の能楽」に触れて地域における伝統芸能・伝統文化を再発見しよう～」に対し、助言を行うこと <p>■イベント告知・参加者募集等への協力・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備中県民局管内の関係機関や市町村にチラシ等を配布するなど、県民の参加がより広く得られるように支援すること。 ・募集段階から事業実施に至るまで、マスコミを利用した広報に努め、事業成果を高めること。 ・連携可能な行政機関や特定非営利活動法人との協働を支援すること。 <p>■補助金の交付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画、役割分担にそって予算の範囲内で、甲に対して補助をすること。 <p>【その他】</p> <p>マスコミや地域の学校、文化振興財団等への広報協力依頼等</p>																

【理由・期待できる相乗効果】

■地域住民や地域の学校、文化振興やまちづくりを実施している特定非営利活動法人等と連携→各々の立場で企画の立案や運営に参加の協力依頼→活動を通して備中地域の伝統文化に関心を持ってもらう。

■行政ホームページやイベント案内等により地域外の関心を持つ層に情報を発信。当該地域に訪れて伝統芸能に触れてもらう機会を増やす。こうした取り組みにより企画に参加する地域内・外の交流人口を増加させ、備中地域の魅力として伝統文化・伝統芸能を再発見する機会を設ける。

■備中地域を舞台とした伝統芸能である能楽「藤戸」の存在を発信して、さらなるイベントの注目が高まることを期待する。

<記入上の注意事項>

- 1 それぞれの項目についてはできるだけ具体的に記入してください。
- 2 「⑤事業目的」欄は、事業を通じて目指す将来的な姿(社会、経済、生活、環境など)、解決したい地域課題や受益者等を踏まえて記入してください。
- 3 「⑥現状と課題」欄は、理想と現実とのギャップ(問題)、事業実施の要因となる地域課題等について記入してください。根拠となる統計データや当事者ニーズ等があれば、それも示してください。
- 4 「⑦事業内容」欄は、課題解決や事業目的における意味・位置づけとともに対象者、実施地域、実施方法などを事業項目ごとに分かりやすく記入してください。
- 5 「⑧天災地変、感染症等で⑦の事業が実施できない場合の対応」欄は、代替案の検討、事業縮小、事業中止などの考えを記入してください。
- 6 「⑨今年度の成果目標と指標」欄は、⑤の目的を果たすために今年度事業で目指すところ(短期の成果目標)を具体的に記入し、事業を評価するための指標と、実施前(現状)と実施後(目標)の数値について記入してください。具体的な数値が得られない場合は、目標と指標のみを記入してください。
- 7 「⑩中期(数年)的な目標」欄及び「⑪長期的な目標」欄は、⑤の目的を果たすため、中長期的に目指すところ(中長期の成果目標)について、具体的に記入してください。
- 8 「⑫翌年度以降の事業展開の予定」欄は、「⑩中期(数年)的な目標」及び「⑪長期的な目標」を踏まえ、翌年度以降に実施する予定の事業内容、組織体制、財源等について記入してください。
- 9 「⑬事業実施に関連する活動実績・アピールポイント」欄には、備中地域への波及効果、事業の先進性、先駆性及び独自性に関すること、継続事業における活動実績や成果等について記入してください。
- 10 「⑭想定される役割分担」欄は、協働協定書に基づく提案団体及び備中県民局の役割を記入するとともに、その他関連団体や機関の想定される役割等を記入してください。

日程計画表

年月	事業内容	場所	規模等
R3. 5.8	「備中能楽講座」	総社市 「総社かぐらや」	20人程度
R3. 7.18 7.25	「備中能楽体験教室」 倉敷会場 早島会場	つくぼ片山家 いかしの舎	20人程度 20人程度
R4. 2.6	「備中伝統芸能フェスティバル」 ①能楽講座で体験した一般参加者の謡の発表会 や関係団体等によるパフォーマンス等 ②能楽解説(歴史的背景等講話) タイトル:「藤戸」を紐解く ③演能会(演目:「藤戸」)	倉敷芸文館 大ホール	300人程度

<記入上の注意事項>

- 1 事業実施年度の年間スケジュール案を記入してください。
- 2 「場所」欄は、想定される実施場所を記入してください(例:〇〇市文化センター、△△市内)。不明な場合、特定できない場合等は未記入で構いません。
- 3 「規模等」は、参加予定人数、印刷部数等数量的に想定される量を記入してください。不明な場合は未記入で構いません。

【添付資料】 能「藤戸」について

○作者 世阿弥

○あらすじ

源平の合戦に勝利した源氏方の武将、佐々木盛綱は、備前国児島にある藤戸の合戦（寿永三年／元暦元年：1184年）で、馬で海を渡る快挙を成し遂げ、先陣の功を挙げました。それにより、児島を領地に賜りました。春の吉日に、盛綱は初めて領地入りしました。すると一人の老婆が現れ、我が子を殺したと名指しで、盛綱を咎めます。初めは、知らぬ存ぜぬを通していた盛綱も、再三の老婆の追及とその哀れな様子に心を動かされ、とうとう告白します。源氏が戦陣を構えた藤戸は、平家の陣地と海で隔てられ、戦況は膠着していました。盛綱は地元に住む若い漁師から、馬で渡れる浅瀬ができる場所と日時を聞き出します。このことを、平家方はもちろん、味方にも知られたくなかった盛綱は、他言を恐れて漁師を殺し、海に沈めてしまったのです。この話を聞いた老婆は、半狂乱となり、自分も殺せと転げまわり、我が子を返せと盛綱に迫ります。盛綱は老婆をなだめ、漁師を回向することを約束し、家に帰らせました。盛綱が、藤戸の海辺で管弦講（かげんこう）を催し、般若経を読誦して漁師を弔っていると、漁師の亡霊が海上に姿を現します。亡霊は、無惨にも殺された恨みを語り伝えに来たと言い、刺し通されて海に沈められた惨劇を見せるのでした。亡霊は、悪龍の水神と化して、恨みを晴らそうとしていたのですが、意外にも回向を賜ったことに感謝し、彼岸に至って成仏の身となりました

○みどころ

前半：佐々木盛綱が領地となった児島に入ると、盛綱に藤戸の浅瀬を教えて殺害された若者の老いた母親が恨みを訴える。

後半：殺害を後悔した盛綱は、若者の法要を営む。若者の亡霊が現れ、盛綱の供養に満足し、成仏する。

倉敷市藤戸で源範頼率いる平氏追討軍と、平氏平行盛軍の間で行われた戦いを舞台にして、わが子を思う母の心と、戦の陰で罪もなく死んでいった人の哀れを描いている。



一部引用：「The 能.com 藤戸」

HP：https://www.the-noh.com/jp/plays/data/program_078.html